ミーティングリポート

今回のスポーツネットミーティングでは、スポーツ現場で活動をされている指導者やトレーナーの方や、リハビリを行っている PT の方にお集まりいただき、スポーツ現場におけるチーム作り、組織作り、現場での質問や意見交換をしました。みなさんの行っている取り組みや考えを聞くことができ内容の濃い時間となりました。

＜スポーツ現場の現状＞

指導をしている選手や患者さんの中で、積極的に取り組めない選手、また何か問題を抱えている選手に対してどういったアプローチをしているかという議題に対し、様々な意見を頂きました。まず、なぜ積極性に欠ける選手が生まれるのかという疑問については、次のような意見がありました。

「特に中学部活動では、選択できる種目が限られています。そのため、無理やり種目を選択している生徒が多いのが現状です。その為、モチベーションが低い選手がうまれる可能性が高いことが考えられます。」

さらに中学部活動では、教育面の役割も大きく、指導者の方々の悩みになっているようでした。

その反面、クラブチームは自主的にスポーツを選び参加している選手が多く、積極的に取り組む選手が多いと言えます。このように環境を整えてあげることが選手には必要ではないかという意見もありました。特に日本のスポーツは、年齢の早い時期から 1 種目に固定するケースが多く、他のスポーツに触れる機会が少ないことが現状の問題として挙げられました。他のスポーツを体験することで様々な身体のこなし方を覚えることができるといいます。

また、問題を解決できるように選手とコミュニケーションをとることの必要性は、みなさんが感じていました。日頃から選手自ら考えさせることで問題に気づかせること、そしてそれを解決するように努めることも重要です。様々な心疾患や症状をもった選手は、その人の居場所を作ってあげるということの大切さや、またその両親が安定すると子供も自然と落ち着くという話を、実例を交えて話をして頂きました。

＜医療現場・スポーツ現場への質問＞

指導者から理学療法士の方への質問として、リハビリをする中で時間が限られている時に困ることがないかというものがありました。診察やリハビリには選手が一人で来ることが多く、学校の先生、監督との連携を取ることができない事が多いということが問題点として挙がりました。リハビリに関しては PT、トレーナーと指導者の方とのコミュニケーションが取れていないとうまく進めることができないため、連携をとれるようにしていくことがチーム作り、組織作りになってくると思います。

また、最後に指導者、PT、トレーナーという職種間で、以下のような意見がありました。

□指導者から PT・トレーナーに向けて：
　頑張らなくていいことの良さを伝え、身体の使い方に関しても正しい知識を持った者がその方法を伝えてほしい。
□PT から指導者に向けて：
　怪我をした選手がいる場合、指導者の方も一緒に診察に来て話し合いをしてほしい。

このような形で様々な立場の人々が交流し、意見交換していくことが現場と医療の連携をより活性させ、スポーツにおけるよりよい組織作りができるのではないでしょうか。

参加者：中学校指導者３名、高校指導者３名、理学療法士８名、柔道整復師１名、地域運動指導者４名、トレーナー３名
合計２２名

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜

次 回 の 開 催 予 定

次回の開催予定は、下記の通りです。個人的に質問のある方は少し早めにいらして下さい。この機会に是非ご参加下さい。

平成25年9月2日 「世界選手権での取り組み」